



「はーとふる農園 名取」で農作業に取り組む就業者

自社の取り組みを発表したのは、日建リース工業の木村浩一さんです。同社は工事現場の仮設足場や仮設事務所、介護関連(電動ベッドや車いすなど)、物流関連(倉庫のラックなど)のレンタル業を営んでいます。

障害者雇用を進めるはーとふる農園の試み

今回開催されたのは、「みやぎSDGs塾」第4ターム・前期の第2回の講座です。「標準コース」では、参加企業の担当者が自社のSDGs関連の取り組みについて発表しました。

障害のある人に就労の場を

昨年12月19日、河北新報社で「みやぎSDGs塾」の講座が開催され、「標準コース」「実践コース」の参加者が学びと交流を深めました。



はーとふる農園について説明する木村さん

木村さんが紹介したのは、同社が近年「農福連携」のキーワードの下で運営力を入れている「はーとふる農園」です。障害のある人と、障害者雇用を進めたい企業とのマッチングを進める施設で、各企業に雇用された人などが農園に集まり、精神保健福祉士や農業技術指導者などのサポートを受けながらベビリーフなどの生産に取り組んでいます。2024年10月には5か所目(東北地方では初)となる「はーとふる農園 名取」がオープンしました。

参加者の声 視野を広く持ちたい



尚綱学院大学 佐藤翔太さん

さまざまな業種・分野でSDGsに関する取り組みが当たり前になってきたのだと感じました。私も日常の身のまわりの課題に気付けるように、広い視野を持つことを心がけたいと思います。

対して従業員の一部割合以上の障害者雇用を義務づける「障害者雇用率」を達成していない企業が多いことを説明。農園での就労が障害のある人にとって「働きがいのある人間らしい仕事」となりうる点や、農園の設置に耕作放棄地を活用している点などについてSDGsの目標に関連付けて解説し、「はーとふる農園」の活動の意義を訴えました。木村さんの話を聞いた参加者からは、「障害のある人の就労意欲をくみ取るしくみが必要だとわかった」「はーとふる農園」のような取り組みは、人手不足の解消にもつながれると思うなどの感想が聞かれました。

みやぎSDGs塾って?

国連が提唱する「SDGs(持続可能な開発目標)」を軸に企業や個人が連携し、豊かな地域づくりを目指す取り組み「みやぎSDGsファーム」の基幹プログラム。SDGs活動を推進する人材「みやぎSDGsアンパサダー」を養成する「標準コース」と、具体的な事例の発展に向けて議論する「実践コース」の2講座が開講され、2021年から河北新報社が運営しています。

参加はこちらから!



賛同企業 募集中!!



公式HP 申し込み・問い合わせ 河北新報社営業局 TEL / 022-211-1318 MAIL / koukoku@po.kahoku.co.jp

実践コース

各企業・自治体の取り組みを共有し、課題解決の糸口を探る



この日はほかにも、食品の廃棄部分などから作るエンシカルペーパーの紹介(リコー ジャパン)や、男性育休の取得促進に関するセミナーの案内(仙台子ども財団)など、多様な分野からの話題提供がありました。

また日本旅行東北の櫻井寛也さんは「高校生が防災について考え、下の世代に伝えるような機会を設けたい」とし、3月8・9日に開催予定の「見て触れて身につく! キッズ防災体験くすくす大切な命を」を紹介しました。

「みやぎSDGs塾・実践コース」では毎回、県内企業のSDGs関連の担当者、自治体職員などが集まり、それぞれの課題や実践についての情報を共有し、課題解決に向けたディスカッションを行っています。

今回の「実践コース」では宮城県環境生活部循環型社会推進課の高橋幸夫さんがエコフォーラムの活動について紹介しました。エコフォーラムは、地域ごとや業種ごとに事業者が集まり廃棄物削減や省エネに関する情報交換を行うしくみで、県内に16グループあります。高橋さんは、エコフォーラムが主体となった活動として、県南の国道沿いに捨てられた尿入りペットボトルを2024年11月と12月に回収した事例を紹介。有効な解決策が見いだされたいない現状を伝えました。参加者からは「地域の美しさを訴えるような看板を設置しては」「公民館のトイレを開放し、地域の直売所を併設する」などの意見が聞かれました。

「みやぎSDGs塾」のアドバイザーを務めるSDGsとうほくの紅邑晶子さんは、「参加者それぞれが関わっている取り組みの情報をこの場で紹介し合ったり、興味を持った話題についてさらに交流を深めるなどして、一人一人の次の行動につなげてほしい」と参加者に語りかけました。

多様な視点で現状を知る

他者の考えに触れる

グループワークで交流

今回の「みやぎSDGs塾・標準コース」には、丸森町耕野で「いなか道の駅やしまや」を営む八島哲郎さんがオンラインで参加。災害時にも仕入れを確保して地域の物資不足緩和に貢献した経験や、所有する竹林の間伐材を肥料にするなど自然の力を生かす農業の試みについて、SDGsの目標「住み続けられるまちづくり」の陸の豊かさも守ろう」に触れながら説明しました。

八島さんと木村さんの講話に続いて参加者は、自社や自身が取り組んでいる、あるいはこれから取り組みたい活動についてSDGsの17の目標と関連付けながら用紙に記入。4~5人のグループ内で記入した内容を発表し合い、質問や意見を交わして互いの理解を深めました。グループワークを終えた参加者からは「ジェンダーについて議論が深まった」「他社の取り組みに、自社の



グループ内で考えを伝え合う参加者

事業と通じる点があると感じた「環境に優しい商品に関する」学生参加者の知識に驚いたなどの感想が聞かれました。「みやぎSDGs塾」のアドバイザーを務めるSDGsとうほくの紅邑晶子さんは、「参加者それぞれが関わっている取り組みの情報をこの場で紹介し合ったり、興味を持った話題についてさらに交流を深めるなどして、一人一人の次の行動につなげてほしい」と参加者に語りかけました。

第4ターム参加者(敬称略)

【みやぎ生活協同組合】高橋美咲、石田詩歩、乙戸沙織【日本旅行東北】鈴木優希【荒町商店街振興組合】庄子康一【YES工房】大森文広【エントワデザイン】佐藤寛和【オフィス塩竈】加藤貴伸【国分東北】千田李奈【タイハク】水戸伸敏、加藤ひなの【大日本印刷】阿部巧、小泉一也、矢島迅人、大沼真洋【日建リース工業】木村浩一【日立ソリューションズ東日本】大塚千翔【宮城県民共済生活協同組合】松野友紀、鹿野大、加藤雅己、今野凌汰、菊池佑輔、宮崎和奏【ミライトス】鈴木圭介【WACO CREATE】岩村和哉、岩村優香【仙台高等学校】渡部真路【尚綱学院大学】坂本真斗、佐藤翔太【オブザーバー】紅邑晶子、高橋好郎、高浦康有

賛同企業・団体・個人

株式会社 日立ソリューションズ東日本

宮城県民共済



独立行政法人 環境再生保全機構



日本製紙株式会社

みやぎ生協

山一地所



エントワデザイン

国分東北

日建リース工業株式会社

日本旅行東北

ミライトス株式会社

特別協力 SDGsとうほく

協力 宮城県 JICA東北

荒町商店街振興組合 YES工房

オフィス塩竈 いなか道の駅やしまや

多賀城工場地帯連絡協議会

WACO CREATE

尚綱学院大学SDGsセンター